

いなかのおか

公益社団法人
東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



Ⅱ

2012

No. 163

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—XXXV

下馬部会 齋藤 賢一

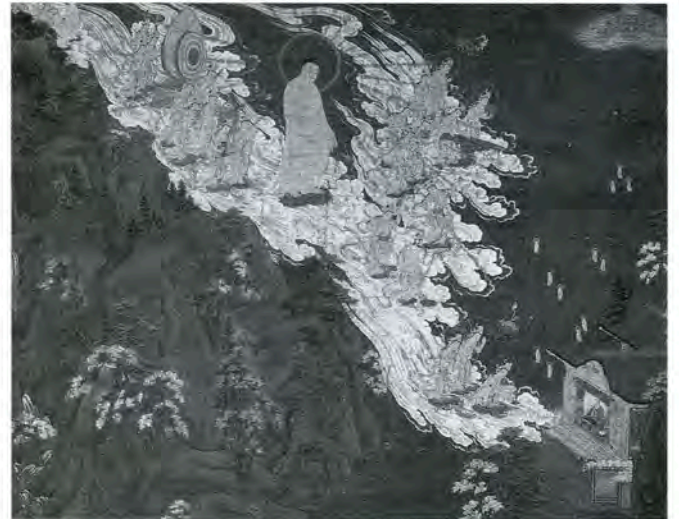
平成23年3月11日の東日本大震災は未曾有の大震災となり、甚大な被害を及ぼしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。被災地の中で福島県は九州大分県とともに磨崖仏の宝庫であります。特に被害が激しい浜通りには平安後期の磨崖仏が、中通りにも鎌倉期の磨崖仏や石仏があります。現在どのような状態になっているか解りませんが、私が見学した8年前のお話を今回したいと思います。

東北・関東地方には古い時代の磨崖仏はあまりありませんが、その中のほとんどが福島県にあります。それは平安時代の法相宗の僧、徳一の影響ではないかと考えられています。徳一は9世紀の初め南都六宗の法相宗の僧でありましたが南都仏教が墮落して行くのを嫌い、都を離れて東国の山村で修行をして数々の寺院を建立したと言われています。特に磐梯山信仰と結びついた会津の恵日寺を始め五薬師を本尊とする寺院を建立しました。それにともない磨崖仏も早い時期から彫られたのではないかと思います。

そのほか福島独特の阿弥陀三尊来迎供養塔があります。鎌倉時代から南北朝時代にかけて浄土信仰の普及により作られました。阿弥陀如来は、仏を慕い浄土に生まれることを願う者の臨終に、西のかなた十万億土の極楽から、聖衆を率いて迎えに来るといわれます。その姿を描いたものが阿弥陀如来来迎図であり、石板に薄肉彫りしたものが阿弥陀来迎供養塔です（写-1）。中通りに多く見られ、ほとんどが観音、勢至菩薩を従えた三尊形式です。

また江戸時代に全国的に流行した西国三十三観音霊場めぐりがあります。各地に講などが作られました。近畿地方は庶民が簡単に行ける所ではありませんので、地元の寺院や山の中に三十三観音石仏を安置し、そこへ詣でてご利益を得る方法が各地で盛んになりました。福島県では石仏安置ではなく岩盤に三十三カ所磨崖仏を彫る形式のものが造営されました。

それでは最も古い平安時代後期の磨崖仏、泉沢大



写-1 阿弥陀如来来迎図

悲山磨崖仏と塩崎岩屋磨崖仏のある南相馬市を訪れます。国道6号線の波江町から県道波江鹿島線にはいと大悲山があります。大悲山には3カ所の石窟があり、磨崖仏が彫られています。薬師堂磨崖仏は磨崖仏の前に覆屋が建てられ扉を開けると自動的にセンサーで照明がつきます。清掃も行き届いており地元の人達の信仰の篤さを感じられます。内部には3mを超える如来三尊座像と観音菩薩立像などが厚肉彫りされています（写-2）。風化により印相などがはつきりしませんが、釈迦、薬師、阿弥陀の三尊と言われています。その両側には観音菩薩立像、弥勒座像、そして周



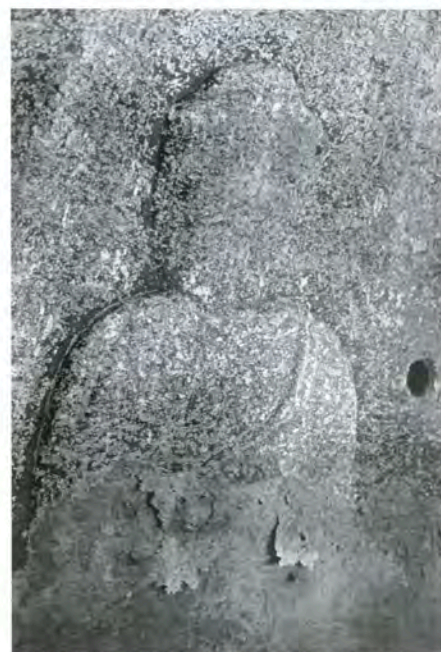
写-2 「薬師堂磨崖仏」泉沢大悲山磨崖仏

囲には飛天の薄肉彫りが見られます。相当崩れてしまっていますが量感や迫力が感じられ、大分の磨崖仏に勝るとも劣らない出来だったと思われます。次の石窟はすぐそばにある阿弥陀堂磨崖仏で磨崖仏はほとんど崩壊してよくわからない状態です。最後の石窟、観音堂磨崖仏は少し山の中に入った所であり、なんと9mを超える千手観音座像が彫られています。ここも剥落が激しく、何とか頭と手の一部が解る状態です(写-3)。周囲には色彩の残る小さな仏像が沢山彫られています。ここからあまり遠くない水田の奥の棚田



写-3 「観音堂磨崖仏」泉沢大悲山磨崖仏

になった所にとっても立派な覆屋がついた塩崎岩屋堂磨崖仏があります。中は暗く、崩壊が激しいのでよくわかりませんが説明書きによりますと9体の仏像が彫ら



写-4 塩崎岩屋堂磨崖仏

れており、昔から仏像の削り砂を「痣」につけると御利益があると言う民間信仰のため損傷がひどくなったと書いてあります(写-4)。

次に鎌倉時代の和田磨崖仏へ行きます。須賀川の近くであり阿武隈川の河岸段丘の崖の横穴古墳群を利用し



写-5 和田磨崖仏

てつくられた石窟仏であります。薄暗い森の中であり剥落風化がひどいので仏像の種類は解りませんが、丈六の阿弥陀如来と言われています(写-5)。左側の横穴にも6体の仏像が彫られています。ここの本尊も乳の出が悪い時には大仏の胸部を削って飲むと乳の出が良くなるという民間信仰のため胸がえぐられています。韓国でも磨崖仏の目を削って飲むと眼病に効くと言うことで異様に目がえぐれた石仏がありました。

須賀川の東北本線を超えた反対側に館ヶ岡磨崖仏があります。この磨崖仏は固い安山岩の壁面を彫っているので保存状態がとても良く、姿形がはっきりしており彩色も残っています(写-6)。残念ながら鼻は後



写-6 館ヶ岡磨崖仏

世の補修でとても気になります。周囲には梵字や種子曼荼羅が刻まれた大きな石が散乱しています。

福島県独特の彫刻である阿弥陀三尊来迎供養塔は中通りに集中してあります。その中でも最も古く(1258年鎌倉時代中期)最も魅力的な陽泉寺来迎供養塔は東北自動車道の福島西インターチェンジの近くにあります

す。供養塔は陽泉寺の裏山にあります。立派な堂に入っており、お寺の方に鍵を開けてもらいます。薄肉彫りで中央に光り輝く阿弥陀如来、前方に腰を屈め蓮台を持つ観音菩薩、後方に合掌する勢至菩薩がたなびく雲の上に彫刻されています（写-7）。



写-7 陽泉寺来迎供養塔

今まさに西方浄土から救済にいらっしゃる暖かくかつスピード感のある素晴らしい像です。東北本線の須賀川のまわりには来迎供養塔が沢山あります。長命寺来迎供養塔は陽泉寺来迎供養塔に次ぐ古いもので、水田の前にあり鉄柵が邪魔です。陽泉寺来迎供養塔とは構図が違い、中央の阿弥陀如来は正面を向き来迎印を結び、右側に心持ち内側を向いて蓮台を持つ観音菩薩、左側に合掌する勢至菩薩が彫刻されています（写-8）。



写-8 長命寺来迎供養塔

なかなか良い出来です。またもう1基すぐ横に来迎供養塔が安置されています。下宿来迎供養塔は須賀川駅のそばの森宿にある宝来寺の境内に3基並んであります（写-9）。向かって右側には陽泉寺来迎供養塔と同じ形式の



写-9 下宿来迎供養塔

もの、中央と左側には長命寺来迎供養塔と同じ形式のもので、比較的彫りが深くてはっきりしているため雨ざらしをさげ早急に屋根を掛けた方が良いでしょう。

三十三観音磨崖仏の見学は福島市の北にそびえる信夫山の中腹東側にある岩谷観音磨崖仏から始めます。国道4号線の岩谷下交差点からすぐの所に駐車場があり急な石段を上って行きます。三十三観音の他地藏、不動明王など60余りが彫られています（写-10）。江戸時代1700年頃から彫られたいぶ風化されましたが相当腕の良い彫り師（あるいは僧）が彫ったため、意匠が素晴らしくとても良い出来です。



写-10 岩谷観音磨崖仏

安達ヶ原磨崖仏は東北本線の二本松から行きます。能や歌舞伎の「黒塚」で知られた人食い鬼婆（岩手）が籠ったと言う安達ヶ原岩屋は観世寺境内にあります。この岩屋は巨大な石がいたるところにごろごろあり、その巨石の表面に三十三観音が薄肉彫りや線彫りで彫刻されています（写-11）。確かに巨石が重なりあって不気味なフォルムを作っている状況はいかにも



写-11 「阿弥陀三尊」安達ヶ原磨崖仏

鬼が出そうです。黒塚の内容は「岩手と言う女が京都の公家の屋敷に乳母として奉公していた。彼女が可愛がる姫は生まれながらの不治の病におかされていた。岩手は姫を助けようと易者に聞くと妊婦の胎児の生き肝が効くと言うので自分の生まれたばかりの娘をおいて旅に出る。旅の果て奥州の安達が原の岩屋にたどり着き、ここで妊婦が来るのを待った。長い年月が経ったある日、若い夫婦が岩屋に宿を求めた。妻は身重でちょうど産気づいてしまった。夫が薬を求めて出かけたすきに、岩手は出刃包丁を取り出し女の腹を裂き胎児から肝を抜き取った。だが女が身につけているお守りを目にして岩手は驚愕した。なんとそのお守りは自分が京を立つ際、娘に残したものだ。自分の娘を殺したと言うあまりの出来事に岩手は精神に異常を来たし、以来旅人を襲っては生き血と肝をすすり、人肉を食らう鬼婆と成り果てた。ある日紀州の僧、東光坊祐慶が旅をしている途中に日が暮れ、岩屋に宿を求めた。岩屋の老婆は薪を拾いに行くといい、決して奥の間を覗かぬよう言っただけで岩屋を出た。祐慶は好奇心から奥の間を覗くとそこには人間の頭骸骨が山のように散乱していた。祐慶は震えながら岩屋を抜け出したが鬼婆が猛烈な早さで追いかけてくる。祐慶はとっさに荷物の中から如意輪観音を取り出して必死に経を唱えた。すると祐慶の菩薩像が空へ舞い上がり、光明を放ちつつ破魔の白真弓に金剛の矢をつがえて射ち、鬼婆を仕留めた。鬼婆は命を失ったものの、仏の導きにより成仏した。祐慶は鬼婆を阿武隈川のほとりに葬り、その地は「黒塚」と呼ばれるようになった。」というものです。境内にはこの岩屋があります(写-12)。



写-12 「黒塚の岩屋」安達ヶ原磨崖仏

岩角山磨崖仏は二本松市と本宮市の境に位置する岩角山の岩角寺にあります。

昼なお暗い深い森の中にある奇岩奇石に薄肉彫りや線刻で三十三観音を始め200体の磨崖仏が彫られています(写-13)。山全体が霊場になっており独特の雰囲気があります。二本松のそばにもうひとつ三十三観音磨崖仏があります。館山磨



写-13 岩角山磨崖仏

崖仏といい矢吹町の隈戸川の川岸の崖にあります。岩に龕を彫りその中に三十三観音が半肉彫りされています(写-14)。まわりはとても良く整備されています。

以上見てきたように福島県には平安時代から江戸時代まで独特の石仏文化があります。8年前これらの磨崖仏や石仏を見に数回足を運びました。磨崖仏はとても解りにくい所にあるのでその都度近くの方に道を尋ねます。野良仕事の手を休めて教えていただき、また家から出てきて解らなければ隣の家まで聞きに行き、教えていただき、地図まで描いていただいたりと、とても親切にいただきました。そして皆さん一様に



写-14 館山磨崖仏

わざわざ東京から来ていただいてありがたいことだという顔をされます。被災後はどのようにされているのでしょうか。美しい海と水田、懐かしい里山、気高い山々はどのようになっているのでしょうか。天災と人災の恐ろしさをそして人間の無力さを知りました。一刻も早く復興できることを心よりお祈りいたします。

